

なぜ絵文字を使わないか？絵文字一つを文字や文章で表現しようと思うと、3倍、いや数倍頭を使わなければならない。絵文字も今は多彩になってニコニコマーク一つにしてもどれくらいニコニコなのかまでのバリエーションがある。一つ探し出せば文字を何十文字も使わなくても、意思、意図、感情あるいは事物などを簡単に表すことのできる絵文字はとても便利なツールであるとは思うのだが、一方、押し付けだとか、傲慢だなど思うこともある。それで文章を駆使して怠けたがる頭脳を働かせてやろうと思ったりする。ただし、稚拙な文章であったり、読み手の理解度によって解釈が異なったりすると不可解な謎を生むことも、誤解されてしまうこともある。文章の面白さはこの辺にあるとも言えるのだが。

絵文字がユニコードコンソーシアム（技術委員会）で管理されているとは知らなかった。コンピューターやIT機器で使われる世界中の文字言語は1990年代からすべてここで管理されるようになっていて、この委員会の絵文字部会が認証しているという。絵文字は国際的に“emoji”と表記されて通用する2011年に日本で発祥した誇るべき文字文化で、いまや世界で最も使われている言語だともいわれている。さらに、デジタル時代のボディランゲージとさえ。その絵文字は個人でも簡単に作ることができるが、ユニコード委員会が認証しなければ“□”あるいは“?”と表示される結果となる。新たに開発した絵文字はこの委員会に申請をするのだが、3～5ヵ月に一度参加各企業が持ち回りで開催される委員会で、認証されるのは一年間に60～70個に制限されているのだそうだ。2020年最近の委員会では白ワインが却下され、トランスジェンダーの旗が登録されたのだとか。宛名以外の文章が文字なしの絵文字のみという本文がすでに出てきている絵文字文化ではあるが、皮肉にも新しく絵文字を登録してもらうためには委員会あてにかなり長文の申請書が必要なのだそうだ。